

刈谷・愛教大生が教材制作

刈谷市の愛知教育大の学生団体「SAGA(サーガ)」が、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を学べる教材を制作した。西三河地方の小学校へ贈るため十八日までクラウドファンディング(CF)で資金を募っている。SDGsについて「何を教えたらいいかわからない」との悩みが学校現場から漏れ伝わるとい、学生たちは「授業で活用してもらえたら」と、協力を呼びかける。

(諏訪慧)



神経衰弱などでペアをつくって遊ぶバイオミクリー・トランプいずれも刈谷市の愛知教育大で

生物多様性 トランプで学ぶ

教材は五十二枚でひとつのカード「バイオミクリー・トランプ」。バイオミクリーは「生物模倣」を意味し、動植物の仕組みを製品開発などに活用

小学校に寄贈へ資金募る

カードは具体的な「動植物の仕組み」と「実際の活用例」がペアになっている。葉の表面の微小な突起で水をはじく「ハス」と、この仕組みを応用して裏側にヨウゲルトが付着しないようになっている「ヨウゲルトのふた」がペア。トランプの神経衰弱と同じようにペアをつくって遊ぶことで、「目標15」で示す「生物多様性の価値」などに触れられる。

SAGAは二〇二〇年四月に設立。新型コロナウイルス感染拡大で多くの大学で立ち入りが禁じられるなど教育がままならず、教材開発などを研究する当時の学生の有志が「授業のない中でも何かできないだろうか」と立ち上げた。

SDGsを学ぶかるたなど複数の教材を手がけ、小学校で出前授業をしたり、イベントに出展して体験会を催したりしてきた。バイオミクリー・トランプは「購入したい」との声が寄せられるほど評判がよく、小学校で活用してもらおうと資金集めに挑戦。サーガ代表で教諭志望の四年、市川佳依さん(三三)は「楽しみながらSDGsについて考えてもらえたら」と話す。

CFは専用サイト「レディーフォー」で受け付ける。目標は百万円で、達成した際は西三河の九市一町の全二百十六小学校へ贈る。



バイオミクリー・トランプを手にする市川さん(右)らサーガのメンバー